

えんちょう通信

No.82

令和 4年 10月 17日
福島市立清水幼稚園
発行者 佐藤 一男

「いい電」に乗って、世界を広げる

10月14日(金)「いい電」に乗って、飯坂温泉の旧堀切邸に行きました。幼稚園の近くの泉駅で8時53分の電車に乗り、飯坂温泉駅に向かいました。

電車の窓から外の看板を見て「あっ、『セブンイレブン』って書いてある!」「『しまむら』って書いてあるよ!」と子どもたちは看板の文字を読んで教えてくれます。

「次は平野、平野」という車内放送が聞こえてくると、男の子たちが、「ティラノ」「ティラノ」と言って大喜びしていましたよ・・・と、その子たちのそばにいた先生が嬉しそうに教えてくれました。「平野」と聞いて、子どもたちは大好きな恐竜のティラノサウルスを思い起こしたのでしょうか。子どもたちは言葉にとっても敏感です。

そして、花水坂駅に着くと、予想通り「『はなみず』だって・・・、おかしいね。」と言って大喜びしています。こうやって子どもたちは恐竜を思い起こしたり、「鼻水」を想像したりと、知っている言葉と関連付けながら、いろいろな言葉を覚えていくのかもしれませんが、言葉を増やしていくことはとても楽しいことなのだろうと思います。

そこに車掌さんが来ました。そして子どもたちに声をかけてくださいました。子どもたちが遠足で足湯につかりに行くと言うと、車掌さんは「いい遠足だね、『足湯』か。この辺の子の遠足は、『足湯』なのか・・・。」と子どもたちの頭を優しくなでてくださいました。「いい電」の皆さんは、いつも優しくしてくださいます。

飯坂温泉駅で降りて、坂道をのぼって旧堀切邸に向かいました。町の人たちもみなさん声をかけてくださいます。薬局の方は、わざわざ外に出てきて声をかけてくださいました。

9時半ごろ旧堀切邸に着いて、写真を撮って、足湯に入りました。「あったかい。」「溶けちゃいそう・・・。」と女の子がニコニコしています。そして5分くらい足湯につかって、「ああ、ポカポカした・・・。」と言って、足湯から上がりました。

そのあとは、立派なお屋敷や蔵の中を見て回り、近くにある肉屋さんのコロッケを一つ食べ、そしてまた電車に乗って帰ってきました。

幼稚園から一歩外に出ると、そこには子どもたちの知らない世界が広がっています。子どもたちはワクワクドキドキしながら、そして緊張しながら、その現実の社会に、本物の世界に踏み出していきます。そこでどんどん新しいことを見たり、聞いたりして、自分の世界を広げていきます。

11月には「いい電」に乗って、福島県立図書館に本を借りに出かけます。

